

令和6年度 第1回庄原市総合教育会議 議事録

日 時：令和6年5月7日（火） 13時30分開会

場 所：庄原市役所本庁5階 第1委員会室

出席者：【構成員】

木山耕三 市長 牧原明人 教育長 横山和明 教育委員
立花有佐 教育委員 捻金宏昭 教育委員 渡部要 教育委員

【事務局】

加藤武徳 企画振興部長 荘川隆則 教育部長
田部伸宏 企画振興部企画課長 足羽幸宏 企画振興部いちばんづくり課長
毛利久子 教育部教育総務課長 高淵直哉 教育部教育指導課長
亀山慎也 教育部生涯学習課長 安藤秀明 企画振興部企画課企画調整係長

【議事進行】

木山耕三 市長

欠席者：なし

傍聴人：3名

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 議題

令和6年度 庄原いちばんづくりの主な重点事業について

- ① 庄原ファンクラブ
- ② 庄原いちばんづくり留学
- ③ 至学館大学との連携
- ④ 県立広島大学庄原キャンパスとの連携

●事務局より説明

配布資料に基づき、令和6年度 庄原いちばんづくりの主な重点事業について説明

●意見交換

【市長】

庄原ファンクラブについては、様々な場面でPRをしているが、知ってもらっても「入会」につなげるのは難しい。庄原を知ってもらい、庄原に何があるのかをもっと発信していくため、まずは庄原に住む皆さんに主体的にご加入いただき、そこから枝葉を伸ばしていくことを目的とした組織である。

現在の2,000人という会員数に満足せず、誰でも気軽に加入できるようにしたい。

人口減少を何とかしたいという思いから、これまで市外に様々な応援者・協力者がおられるが、情報を発信していくための良い手段がなかった。

庄原ファンクラブは、みんなが本気を出して、市民が主体の仕組みにしていく必要がある。そのためには、入りやすくわかりやすいものでないといけないと思っている。

また、新たに考えたのが、定住を進めるために必要な働く場所づくりや住まいのことも考えていかなければいけないということで、市と市内の団体が連携する「庄原いちばんづくり留学」という、若い方々に興味を持っていただけるような新たな取り組みを、地域おこし協力隊の制度も活用し、行っていくこととしている。

至学館大学については、大学との交流のきっかけをいただいたので、大学生や教員の方との関わりを持ち、将来的に合宿という取り組みにつなげていきたい。

情報が頼りなので、是非とも皆さんからも情報をいただき、庄原市の魅力を発信し、関係人口の拡大を図ってまいりたい。

これらの取り組みについて、何でもよいので、ご意見がある方はよろしくお願いします。

【横山委員】

留学事業に関連して、例えば体験を通じたイベント事業に手を挙げる場合に、予算等がつくための基準というものがあるのか。

【事務局】

令和6年度は試行期間として、幅広く取り組むのではなくて、このようなシステムが運用できるかを実証したい。

初年度は、担い手確保が深刻化している農林業は本市の強みでもあるということから、受け入れ先として、お願いしていこうと考えている。

また、庄原ファンクラブ事務局の業務も手伝っていただきながら、関係人口の創出に向けて若者ならではの意見を取り入れながら実施していきたい。今後、まずは2泊3日のプログラムに取り組み、3か月や1年の留学事業につなげていきたい。

まだ内部で調整中のところもあり、皆さんからの様々な意見をいただき、今年度の実施に向けて準備していく。

【横山委員】

これまで様々なイベントを実施する中で、交流人口の創出はやってきたと思うので、そうした交流の中から、次は庄原を体験することへとつなげていくことができればよいのではないかと思う。

【事務局】

昨年度、庄原ファンクラブでは、お手伝いプロジェクトとして、農家のお手伝いを4回実施しており、参加者の満足度も高かったことから、今年度は更に回数を増やしていき、交流を体験につなげる取り組みにしていきたい。

また、ファンクラブの協賛店・協賛団体を募集しており、まだ数は少ないがイベント実行委員会などにも登録していただき、そこに会員が参加するようなこともできたら良いと思う。

【横山委員】

現在、取り組んでおられるイベントをファン獲得の場として捉え、もっと積極的にアプローチしてもらえればよいと思う。

約2,000人のファンクラブ会員のうち、20～30代の会員の割合はどうか。

【事務局】

20～30代は10%程度で、主力は50代以上の方である。

そういったこともあり、今年度は若者をターゲットとした活動をしていこうと考えており、県大生や高校3年生にアプローチしていく予定である。

【立花委員】

いちばんづくり留学の仕組みの図中の地域支援員というものは、どのような役割かをお伺いしたい。

【事務局】

総務省が実施している地域おこし協力隊制度を活用したいと考えており、その対象者は都市部に住む若い方で、市が委嘱し隊員となられたら国から支援金が出る仕組みである。

この仕組みを活用して、都市部の若い方に協力隊員として仮の名称であるが地域支援員になっていただき、森林組合や農家さんに入ってもらって、3か月～1年の間で庄原市の活性化につながるような仕事に従事してもらうことを想定している。

【捻金委員】

ファンクラブ会員拡大の取り組みとして、高校3年生へのアプローチが挙げられているが、どのようなことを検討されているのか。

【事務局】

これまで、卒業される前の高校3年生に向けて、ファンクラブ加入をお願いしてきたが、加入のメリットも伝えられていないので、なかなか入ってもらえない状況であった。

そうしたことから、今考えているのは、一例として、進学して一人暮らしで頑張っている庄原出身の学生の皆さんに、市の特産品や市民の応援メッセージを、ファンクラブを通じて送るような仕組みを構築できればと考えている。

【市長】

将来的に、若い方たちが、ふるさとで地域の原動力になってもらうためのきっかけになれば、良いと思っている。

例えば、東城高校の生徒たちも、様々な活動を通じて、庄原を訪れる方におもてなしをして、それが子どもたちの地域愛を育むことにつながっていると思う。

【立花委員】

最近、県大庄原キャンパスの学生も地域とつながりを持って活動しておられる姿をお見受けする機会がある。周知は進んでいないが、県大の図書館の利用など市民が県大の施設を活用することもできる。県立広島大学との今後の連携も図られるのではないかな。

【市長】

現在は、学生募集の段階から県大の希望者数が減ってきており、市としても、どういう協力をすれば良いか、学生の皆さんを「まち」に呼び込むために何ができるのかを、これから協議していきたいと考えている。

身近なところに若い世代がおられるということ意識して、魅力のある「まち」にしていかなければならないと考えている。県立大学が市にとって重要な役割を持っているということ認識したうえで、学生が求める場づくりをしていきたい。

【渡部委員】

小・中学校の子どもたちに向けて、市がファンクラブのような活動に取り組んでいるということを発信するような講座や、そのようなことを教えてほしいという学校などからのリクエストはないのか。

もっと小さい段階からそのような取り組みをしていくほうが良いのではないかな。

【事務局】

ファンクラブ会員が18歳以上ということもあり、子ども向けの講座やイベントを実施したことはないが、出前講座は可能と考える。ジュニア会員のようなものを考えてもらいたいという意見もあるので、情報発信も含め、検討していきたいと思う。

【渡部委員】

西城の「みらいラボ」の取り組みなども保護者の方の話ができる場となっているので、そういった場をもっと活用して、PRされたら良いのではないかと思います。

【事務局】

「西城みらいラボ」の皆さんには、協賛団体となっていただいております、ご協力をいただいているので、ご意見を参考にさせていただいて、より柔軟に対応してまいります。

【横山委員】

東城では、保育所、小学校、中学校、高校が連携して、自分たちのふるさとの誇れるものを掘り起こして、それを検定にする「東城検定」という取り組みをしている。

小学生の時に検定を受け、高校生が採点をするということを通じて、自分たちが育ったふるさとに対して、だんだん誇りが湧いてくる。

そういう意味で、このファンクラブも、自分たちが育ったふるさとの情報が今後入ってくるというのは、ありがたいと思ってもらえるようになれば良いと思う。

【捻金委員】

県大生と中高生のコラボ活動支援について、地域での行事のみのコラボ活動を対象としているのか。

【事務局】

具体的に、特にこういう形でないといけないというものに限定するつもりはなく、地域活動やイベントもあるし、県大のサークル活動などを軸に様々な可能性を探りながら、相互交流を行っていききたい。

【市長】

先般、消滅可能性自治体についての報道があったが、少子高齢化が一気に解消されることはないと考えている。働く場のことなどを考えると都市部に若い方の気持ちに向かうのは仕方がないことと思うが、庄原が選ばれるようになるためには、若い方に留まってもらいたいと言うだけでは、何も変わらない。しっかりと仕掛けを考えていかなければいけないと思っている。

【教育長】

教育委員会としても、子どもたちや親の世代に対して、どのように市の取り組みを展開できるか提案することや、また様々な提案も受けながら考えていきたい。

中学生に対する意識調査によると、子どもたちが将来、故郷に帰ってきたいと思うかという問いに対して、平成 17 年の合併時は約 25%であったが、令和 2 年には約 57%になっており、市の取り組みも影響していると考えている。

理由として挙げているのは、庄原に家族や友達がいるなどがあるが、もう一つは庄原に愛着があるというのが理由となっている。

ファンクラブの活動などは、このような意識を醸成するうえでも、良い取り組みではないか。また、県大や至学館大学との連携事業なども、連動していくと考えている。

特に県大は身近にあり、入学して取れる資格の中に理科などの教員資格もあるので、地元の中学生や高校生たちが県大のことをよく知るといいうのも大切ではないかと思う。

【市長】

学校の統廃合についても、時間をかけてじっくり考えることで、子どもたちがどうしたいのか、親の世代がどうしてやりたいのか、様々な意見が出るようになってきた。子どもたちのためにどうあるべきかを我々が考えていく必要があり、十分議論を行って、しっかりと子どもたちを見つめて、検討していくことが必要だと思う。

今後も皆さんと会議を持たせていただきたいと思うので、よろしく願いいたします。本日は大変、ありがとうございました。

4. 閉会 15 時 00 分